

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合委研究事業）
分担研究報告書

「患者体験調査（成人版）」および「患者体験調査（小児版）」の設計と作成

研究分担者 脇田 貴文 関西大学 社会学部 教授

研究要旨：平成 27 年に実施された「患者体験調査」に関して心理計量学的視点から再検討を行った。その結果をもとに、平成 30 年度から実施している「患者体験調査」の調査票の設計を行った。また、小児がん患者を対象とした「患者体験調査（小児版）」の設計を行った。

A. 研究目的

平成 27 年に実施された「患者体験調査」に関して、すでに報告されている結果に対して因子分析などの手法を用いて再分析を行った。

平成 30 年度に実施する「患者体験調査」では、回答のしやすさ（レイアウト・教示・項目内容）、心理的変数を考慮にいれることができるよう調査票の改訂を行った。

また、小児がんを対象とした「患者体験調査」に関しても成人版の「患者体験調査」基に、小児がんの治療等の状況を把握するために適した調査票の設計を行った。

B. 研究方法

1. 平成 27 年「患者体験調査」の再分析

平成 27 年「患者体験調査」から、心理的な変数を抽出し、因子分析など心理計量学的検討を行った。

2. 平成 30 年「患者体験調査」調査票の作成

平成 27 年「患者体験調査」のデータとの比較可能性も担保しつつ、妊孕性など新たな項目の作成を行った。はじめに、専門家の意見を基に作成された項目に関して、心理計量学・心理調査法の観点から調整を行った。

患者インタビュー、専門家の意見を踏まえて最終調整を行った。

3. 平成 30 年「患者体験調査（小児版）」調査票の作成

2 の成人版と同様の手続きで作成を行った。

（倫理面への配慮）

本研究に関しては、個人情報等は取り扱わないので、通常の研究倫理に基づき、研究を遂行した。

C. 研究結果

1. 平成 27 年「患者体験調査」の再分析

因子分析等の心理計量学的分析を行ったが、調査設計段階でそのような分析をすることを想定されていなかったため、必ずしも新たな知見が示唆されるものではなかった。その結果を踏まえ、平成 30 年「患者体験調査」の設計を行った。

2. 平成 30 年「患者体験調査」調査票の作成

専門家の意見、患者インタビューなどを経て最終的な調査票を完成した。現在データの収集がなされている。

3. 平成 30 年「患者体験調査（小児版）」調査票の作成

専門家の意見、患者インタビューなどを経て最終的な調査票を完成した。現在データ

の収集がなされている。

E. 結論

これまでに蓄積された調査データも活かし、新たな「患者体験調査」および「患者体験調査（小児版）」の設計を行った。令和元年度にデータ収集の完了、分析結果の報告を行う。

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
 なし
2. 実用新案登録
 なし
3. その他
 なし